

爽やかな風を感じて、着実に歩もう！

青葉若葉に風薫る良き季節となりました。平素は、聖母の小さな学校の教育に格別のご協力をいただき、深く感謝いたします。

収まりそうにないコロナ禍の中、人との交わりも制限され、交わりの中での心の広がりも深まりも望めないような社会の状況です。知らず知らずのうちに他者に関心が持てなくなり、気が付いたら孤立しているというような人間関係があちこちに見られます。大人ならその事に気づいた時に繋がろうと言う意思があったり、再度つながる方法を知っていたり、経験があったりするでしょうが、人間への成長のプロセスを歩んでいる子どもたちにとっては、孤立した状態から脱することは容易ではありません。そのような、ある意味で過酷な状況にあつて、本校の生徒たちは、この4月から高校への通学を始めた生徒、また、通信制高校で単位を取り始めた生徒など、新しいことを体験しながら安心して人と交わり、ゆとりを持って社会参加ができるようにゆっくりスタートを切りました。社会が広がり、対応しなければならないことが多くなり、手順や考えて整理し、行動を作っていくことが難しいこともあります。その時、自分には何が難しいのかを把握し、理解し、学びを進めていくことが大切です。一人ひとりが少しずつ社会を広げ、新しい世界に対応できるよう力を付けていきたいと思えます。

4月の遠足は「日本三景 天橋立」ハイキングでした。松並木を歩く＝体力をつける、おやつを交換する＝人と交わる、弁当を食べる＝安心して人といることができる、などの体験になりました。また、「ウズベキスタン学習」では、ウズベキスタンの本物の豪華な着物（服）と帽子を着せてもらい、映像を通してウズベキスタン特有の食べ物や歴史を詳しく教えていただきました。ロシア語も始めました。まだ1～2回の学習ですが、生徒たちはウズベキスタンに興味を持ち、「行ってみたい！」と関心を示し始めました。その興味を大切に育てていきたいと思えます。

また、本校の30周年記念行事である「鯖街道を歩く」も、机上の学習やわら草履作りも進んでいます。今月中にはわら草履を各自1足完成させたいと計画しています。「わら」という自然の素材、しかも弥生時代から人間が手で触れ、米を採ったあと、様々な生活の道具を作り、活用してきた「生きる」と密接につながっている素材です。それを手にし、縄をない、草履を作る、その時の人間の皮膚感覚は、人間の奥深くにある活動の源になるものを感じさせるようです。生徒の表情が変わりました。人間にとって最も大切な事は、自分とつながる、人とつながる、社会とつながる、孤立しない事、つながる喜びを感じる事だと思います。このことは、聖母の小さな学校の教育の柱です。一步ずつ、着実に歩んでいきたいと思えます。

今月の保護者会は26日（木）19:00～20:30です。本校生徒の保護者でなくても、どなたでも参加できます。どうぞお勧めください。よろしく願いいたします。

<今月の主な行事>

12日（木）・26日（木）ウズベキスタン学習
17日（火）「ポンペイ展」（京セラ美術館）見学



4/26 股のぞきしました！